

P-D-3

整体療法によりひざ痛が軽減した一症例

The Effect of Sei-tai Treatment on Chronic Knee Pain : A Case Report

山本 裕子¹⁾, 小林 忠男¹⁾, 内藤 森雄¹⁾

1) 横浜整体療術院

We have investigated the effects of Sei-tai treatment for human's health. Here, we report the case of a middle-age woman volunteer who has been presented with chronic bilateral knee pain. The volunteer was diagnosed with rheumatoid arthritis 20 years ago and had no experience of Sei-tai treatment in Yokohama Sei-tai Ryojutsuin. After Sei-tai treatment, the intensity of the pain scaled by Visual Analog Scale (VAS) dramatically decreased. This result suggests that Sei-tai treatment in Yokohama Sei-tai Ryojutsuin has some potential to relieve the chronic knee pain.

【目的】

ひざ痛の治療には湿布，鎮痛薬の投与，電気療法，温熱療法等があり，特に関節リウマチ等重篤なひざ痛をもたらす疾患には人工関節の適用が行われている。しかし現在，西洋医学の範囲にとどまらないひざ痛治療法，いわゆる補完代替医療として整体が注目を集めつつある。整体はわが国ですでに広く施行されている補完代替医療の一つであるが，手技は多種多様にわたっており，その具体的な方法は施術者により大きく異なる。本報告では，横浜整体療術院で行われている新しい整体手法が，ひざ痛に対しどのような効果をもたらすかを調べることを目的とした。

【方法】

対象者は両膝の痛みを訴えて来院した 50 代女性とした。彼女は関節リウマチの診断歴を持ち，当該院での施術は初めてであった。対象者に対し整体施術として正座運動および骨位置調整を施し，ひざ痛の強さを施術前後，途中で各一度ずつ測定した。同時に骨盤および脊椎の位置をマークし，施術前後で比較した。痛みの測定には Visual Analog Scale (VAS)スケールを用いた。各測定は対象者がひざを曲げた状態で，最大の痛みが発生する箇所にて行った。

【結果】

施術前後で骨盤および脊椎の位置に変化が見られた。また施術前，正座運動後，施術後に行った VAS はそれぞれ 10.0，7.1，0.5 であった。

【結論】

50 代女性のひざ痛が一連の整体プロセスにより 1/20 に軽減した。またひざ痛の強さと骨盤および脊椎の位置に関連が示唆された。